

Sino Biopharm (1177 HK)

医療 & ヘルスケア / 企業レポート

2014年2月14日

適度な成長が続く

- 今なお汚職撲滅調査の影響が続いている
- 広東省の払い戻し適格医薬品目録入札が新製品の潜在力の開花に役立つ
- 腫瘍薬の貢献が増大



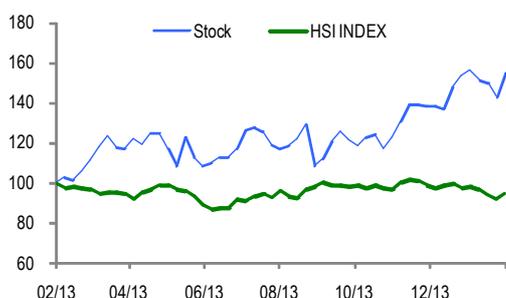
予想の修正 (%)

12月31日決算	13年度 予想	14年度 予想	15年度 予想
売上高の変更	N.A.	N.A.	N.A.
純利益の変更	N.A.	N.A.	N.A.
EPSの変更	N.A.	N.A.	N.A.

主な銘柄データ

52週間の高値/安値	7.34 / 4.12HKドル
30日間の1日当りの平均 出来高	17.07 Mn
発行済み株式数	4,941.46 Mn
時価総額	33,601.93 Mn
主要株主	Cheng Cheung Ling (24.28%)

株価パフォーマンス



主要財務データ

12月31日決算	2011年度	2012年度	2013年度 予想	2014年度 予想
売上高(100万人民元)	5,782	8,327	10,200	12,705
伸び率 (%)	41.5	44.6	22.5	24.6
純利益(100万人民元)	463	891	1,121	1,385
伸び率 (%)	(18.4)	92.5	25.9	23.5
EPS(人民元)	0.094	0.180	0.225	0.281
伸び率 (%)	-19.9	92.8	24.8	24.9
PER(x)	72.7	37.7	30.2	24.2
PBR(x)	3.0	4.0	5.6	4.7
イールド (%)	1.0	0.7	1.4	1.7

出典: 会社データ、京華山一

最新情報

☞ 当社は、Sino Biopharm (SBP)のエグゼクティブディレクターのStephen Tse氏と電話会議を行った。

手がかり材料

☞ **肝炎ならびに腫瘍薬が成長を牽引** 13年第3四半期に心臓薬の売上高は減少したものの、Sino Biopharmの13年1月～9月期の売上高は肝炎ならびに腫瘍薬が牽引役となって34.4%の伸びを維持した。主力の肝炎薬であるTianqingganmeiならびにRunzhongの売上高はそれぞれ37%増、60%増となった。また、腫瘍薬については牽引役であるZhiruoの売上高が大幅に増加(前年比65%増)し、Qingweikeなどの新薬も貢献した。

☞ **広東省の入札が間もなく発表される** 広東省が間もなく払い戻し適格医薬品目録(NDRL)の入札を開始し、他の省もそれに続く可能性が高い。しかし、経営陣は入札価格下げの可能性を警戒し慎重な姿勢を示している。一方で、Zhiruoや呼吸器系薬などの新薬の成長ポテンシャルが入札の新たなラウンドにより開花することがプラスの材料である。

☞ **今なお汚職撲滅調査の影響が続いている** 経営陣は、汚職撲滅調査の影響が今なお続いていると述べた。当社は、13年度第4四半期の売上高が予想を上回るとは難しいかもしれないと見ている。

☞ **腫瘍薬の寄与が増大** Sino Biopharmは、Imatinibを発売し、Dasatinibの承認を獲得した。これら2つの医薬品は主に慢性骨髄性白血病(CML)の治療に用いられる。当社は、これら2つの新腫瘍薬の売上高が共に3億～5億人民元に達する可能性があるかと予想している。経営陣は、臍臓ならびに胃癌治療のための新腫瘍薬を今年発売できると見込んでいる。

バリュエーション

☞ Sino Biopharmは14年度のコンセンサス予想のPERで24.2倍の水準で取引されており、過去の予想PERの平均値である19.0倍を上回っており、概ね他の医薬品銘柄と同じ水準となっている。

当社の見方

☞ 強力な医薬品ポートフォリオならびに初のジェネリック薬に重点を置いた新薬開発を考慮した上で、当社はSino Biopharmが20%を上回る増益を維持でき、それは現在のバリュエーションに適正に反映されていると考えている。しかし、入札価格下げの可能性ならびに汚職撲滅調査が引続き目先の懸念材料として残ることを警戒している。

免責事項: 本資料は、情報の提供のみを目的としたものであり、有価証券の売買の推奨を意図したものではありません。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。本資料は、信頼に足ると考えられる情報源を基にしておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料内で示す内容は予告無く変わる場合があります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)またはコアパシフィックグループの企業、同グループに関係ある個人は、本資料の使用または本資料への信頼に起因するいかなる法的責任も負いません。当資料の一切の権利はコアパシフィック山一インターナショナル(香港)に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則(平 14.1.25)に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。